

# 小学校社会科における真正の学びの授業実践

— 明治から大正期の歴史を学ぶ意味に着目して —

教育学研究科 教育実践創成専攻 教科領域実践開発コース 初等教育分野 大勝佑介

## 1. 研究の背景と目的

予測が困難な時代を迎えていると言われて  
いる現在、平成29年告示の『小学校学習指導  
要領解説』では、子ども達が様々な変化に積  
極的に向き合い、情報を再構成するなどして  
新たな価値につなげていくことが求められて  
いる。また、小学校社会科の目標では、社会  
への関わり方を選択・判断したりする力や、  
それらを適切に表現する力の育成が明記され  
るようになった。これからの時代を生きる子  
ども達が自ら考えて学び、主体的・創造的に  
社会に関わる力を身に付けていくことの必要  
性がさらに増していると言えるだろう。

しかし、現場ではそのような教育が十分に  
行われていない実態があるのではないかと  
OECD 国際教員指導環境調査 (TALIS) 2018  
報告書によると、指導実践において「複雑な  
課題を解く際に、その手順を各自で選択する  
よう児童生徒に指示する」ことを「いつも」  
又は「しばしば」行うと答えた小学校教員の  
割合は38.9%、「明らかな解決法が存在しない  
課題を提示する」ことを同様に行うと答えた  
割合は15.2%と、いずれも低い結果が見取  
れる。こういった現状から、上記のような力  
の育成は今後の学校教育において重要視す  
べきものであるにも関わらず、それに十分に取  
り組めていない現場の課題が指摘できる。

こうした背景を踏まえ、本研究ではこれか  
らのよりよい社会のあり方を主体的に考え判  
断する市民的資質の小学校段階での育成を目  
的とし、そのための授業構想と実践を行った。  
変化し続ける社会と向き合い、あるべき姿や  
関わり方を判断していくためには、一面的な  
理解に留まらないより広い事実認識の形成を

もとに、一人一人が判断の根拠となる自分な  
りの価値認識を形成していくことが必要だと  
考える。そしてそのためには、深い学びの実  
現が欠かせない。様々な視点や立場から多面  
的多角的に事象や課題を追究したり、仲間と  
の議論を通して自分の考えを吟味し再構築し  
たりすることで、開かれた社会認識の形成を  
図り、予測が困難な時代においても自ら考え  
判断する子どもの姿が期待できると考える。

## 2. 真正の学びを実現する授業構成論

### (1) 本研究で目指す真正の学びの概念

「真正の学び」は深い学びに関わる学習方  
略の一つとして、複数の概念が提唱されてい  
る。フレッド・M・ニューマン (2017) らは、  
授業や子ども達の学びの質を評価するために  
「知識の構築」「鍛錬された探究」「学校外で  
の価値」の3つを基準とする『真正の教授法』  
向けスタンダード (以下スタンダード、表1)  
を開発し、授業がスタンダードと一致する時  
き、子ども達の知的側面の質の向上を生み出  
すという研究成果を示している。渡部 (2017)  
はこれを受け、「真正の学び/学力は、(中略)  
『その知識やスキルなどは、実際の社会生活  
の場面のいつ、どこで、そしてなぜ用いるべ  
きであるのか』を理解すること」として、学  
び手の学びの真正性に着目している。

一方、石井 (2015) は「真正の学習」とし  
て、「(前略)『教科する (do a subject)』授業  
(知識・技能が実生活で生かされている場面  
や、その領域の専門家が知を探究する過程を  
追体験し、『教科の本質』をとともに深め合う授  
業)を創造すること」として、学問的な文脈  
に触れることの必要性について提唱している。

表1 『真正の教授法』向けスタンダード

真正の学び	真正の教授法		子どもの真正のパフォーマンス
	真正の評価課題	真正の指導法	
知識の構築	情報の組織化 選択肢（代替案）の考察	より高次な思考	分析
鍛錬された探究	学問的内容 学問のプロセス 卓越した文章による伝達	深い知識 内容のある会話	学問的概念 卓越した文章による 伝達
学校外での価値	学校の外の世界と結びつ いた問題 学校外の聴衆	教室を越えた世界と の結びつき	

フレッド・M・ニューマン著 渡部竜也・堀田諭訳  
『真正の学び/学力-質の高い知をめぐる学校再建』春風社, 2017, p.59より引用

両者の主張に共通するのは、学習者が学ぶ意義や必要性を感じられるような授業や課題を構想することの重要性である。その上で、本研究ではより子ども達の社会参加を意識した「共同体演習という文脈での学び」を重視するニューマンの概念を採用する。ニューマンは「共同体への参加動機を刺激することこそが、真の学びを生じさせるために有効な手段」と述べ、後藤（2021）は「(前略) 学ぶ必要性和意味の自覚には、学びを切実に迫る『現実の社会生活の文脈』が欠かせない」として、学校外の文脈に触れることの必要性を述べている。学習の中で将来子ども達が実際に直面するであろう課題に対峙させる場面を設定することで、子ども達にとっての学びの真正性が生まれ、より主体的に深い学びに向かっていく姿が期待できると考える。学びが学校内に留まり外の世界に広がっていかないものでは、予測が困難な社会の中で主体的に考え判断する力の育成には結びつかないであろう。

そして、ニューマンは既出のように3つの基準を示すことで、真正の学びの実現には専門的知識を学ぶことや知識を統合して新たな見解を生み出すことも必要であるとする一方で、その作成手順や手立てなどの詳細は示しておらず、具体的な授業作りは現場の教師に委ねていると捉えることができる。そこで、具体的な授業を構想する足がかりとして、ニューマンのスタンダードと『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編』（以下、解説）をもとに、現在の小学校社会科学習において真正の学びを実現する手立ての枠組み

を考え、系統的・段階的な構想表を作成した（表2）。解説で求められている学びをスタンダードを形成する7つの評価課題と4つの指導法に沿って構想し、ニューマンの示す大枠からより具体的な学習の方向性を導き出すことで、授業を構想する際の現実的な基準として位置づけることができると考えた。

## （2）歴史学習で真正の学びを実践する意義

授業の実践は、第6学年の明治から大正期にかけての歴史学習で行った。「歴史を学ぶ意味を考える」ようにすることが学習指導要領に明記され、これは真正の学びにおいて知識やスキルがいつどこで生かされるのかを理解することにつながる、重要な思考であると考えられる。歴史を学ぶ意味については多様な解釈が考えられ、児玉（2001）は「歴史教育には、過去の社会の学習を通して現代の社会の理解を深めさせることが求められている」と主張している。歴史学習を過去そのものの理解に留めず、現代社会を捉える（認知的な枠組みとしての）見方・考え方として生かすことが重要であり、それは小学生にも捉えやすい歴史を学ぶ意味だと考える。「学校外での価値」として子どもが直面するであろう課題に対峙させる場面を設定し、歴史的事象や先人達の判断の考察を生かして考える活動を取り入れることは、子ども達が上記のような歴史を学ぶ意味を捉えることに有効に働くだらう。また、渡部（2019）は、歴史学者が語る過去の事実や作法が当然のように教えられ、「子ども達の受け入れる姿勢を生み出すことが民主主義社会の大きな脅威になる」と危惧している。

表2 小学校段階での真正の学びの段階的構想表

「真正の学び」の指標			3・4年生	5年生	6年生
知識の構築	真正の教授法	真正の評価課題	情報の組織化選択肢(代替案)の考察	・学んだ知識を活用して問題の解決に取り組み、自分なりの新たな解釈や説明を生み出すもの(知技・思判表)	・学んだ知識を活用して挑戦しがいのある困難な問題の解決に取り組み、自分なりの新たな解釈や説明、評価を生み出すもの(知技・思判表)
		真正の指導法	より高次な思考	・学んだ知識をもとに新しい問題の解決に取り組み、自分の考えを自分なりの言葉で表現させる(知技・思判表)	・既存の知識を土台にし、情報や考えをまとめる中で、新しい意味づけや理解を生み出させる(知技・思判表)
	子どもの真正のパフォーマンス	分析	・情報を比較したり関連付けたりすることで、自分なりの考え方や視点を生み出している(知技・思判表)	・情報の比較、関連付け、総合などを行うことで、異なる考え方や視点の考察を生み出している(知技・思判表)	・情報の比較、関連付け、総合、仮説設定、評価などを行うことで、新たな文脈へ応用したり、異なる考え方や視点の考察を生み出したりしている(知技・思判表)
鍛錬された探究	真正の教授法	真正の評価課題	学問的内容学問のプロセス卓越した文章による伝達	・各学年の内容と人々の生活との関連について理解し、社会的事象の意味や特色、相互の関連等を考察するもの(知技・思判表) ・社会に見られる課題を把握し、解決に向けて学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断し、自分の主張や説明を詳しく文章に表すもの(思判表・知技)	・5年生の内容と国民生活との関連について理解し、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多角的に考察するもの(知技・思判表) ・社会に見られる課題を把握し、解決に向けて学習したことを基に複数の視点や立場を踏まえて選択・判断し、根拠や理由を明確にして主張や説明を文章に表すもの(思判表・知技)
		真正の指導法	深い知識内容のある会話	・他者の主張を踏まえたり取り入れたりして、自分の立場や根拠を明確に主張させる(思判表)	・議論を通して他者と協働的に追究し、自分の立場や根拠を明確に主張したり考えを再構築したりさせる(思判表)
	子どもの真正のパフォーマンス	学問的概念卓越した文章による伝達	・社会的事象について理解し、具体的な情報や出来事について詳細に説明している(知技・思判表)	・導き出される理論や原理について理解し、それらを活用して具体的な情報や出来事について一貫性のある説明や主張をしている(知技・思判表)	・導き出される理論や原理、概念について理解し、それらを活用して具体的な情報や出来事について明瞭で一貫性のある説明や主張をしている(知技・思判表)
学校外での価値	真正の教授法	真正の評価課題	学校の外の世界と結びついた問題 学校外の聴衆	・身の回りの問題への対処の仕方を考えるもの(知技・思判表) ・学校外の聴衆に向けて学んだことを伝えたり生産物を提供したりするもの(思判表)	・現実社会で直面するであろう問題と同じものに触れ、対処の仕方考えるもの(知技・思判表) ・学校外の聴衆に影響を与えられるよう、内容や表現を工夫して知識を伝達したり生産物やパフォーマンスを提供したりするもの(思判表)
		真正の指導法	教室を超えた世界との結びつき	・学んだ知識を、身近な生活において判断せねばならないことと結び付かせる(思判表)	・学んだ知識を、公的問題や未来の社会のあり方など学校外の生活において判断せねばならないことと結び付かせる(思判表)

これは筆者が抱く問題意識と重なる部分であり、多面的多角的な探究や議論（鍛錬された探究）を通して、一面的な内容理解に留まらない新たな解釈や説明など自分なりの見解を生み出させていくこと（知識の構築）の必要性が示唆されていると言えるだろう。

（3）見方・考え方の変遷と活用

「鍛錬された探究」や「知識の構築」の基準を達成するための手立てとして、「社会的な見方・考え方」に着目する。社会科教育における見方考え方はこれまで様々な解釈がなされており、概念的な知識や認知的な枠組みなど、内容値として捉えられることが多かったようである。一方、解説では「社会的な見方・考え方」として「社会的な事象を見たり考えたりする際の視点や方法」であるとし、澤井・加藤（2015）はそれらを働かせることが深い学びの実現と資質能力の育成につながると述

べている。これに対し渡部（2021）は、「新学習指導要領の『見方・考え方』は分析視点だとか思考作法といった方法知なのだから、これをどんなに改善しても（中略）内容知的な『見方・考え方』を導き出すための手段に随すことになりかねない」と、方法知的な側面ばかりが目されることを危惧している。

以上のことを踏まえ、本研究ではこの方法知的な見方・考え方自体の育成をねらうのではなく、子ども達の社会認識を広げ深めていくための手段として捉え、具体的な発問や資料を構想する際の手掛かりとしていく。社会的な事象を多面的多角的に捉えられるよう視点や立場を増やし、比較・分類・総合など多様な考察の方法をとることで、より広い視野で問題について考えたり、情報を組み立てて自分なりの新たな見解や説明を生み出したりすることにつながるのではないかと考える。

表3 「表2」を基にした単元の授業構想表

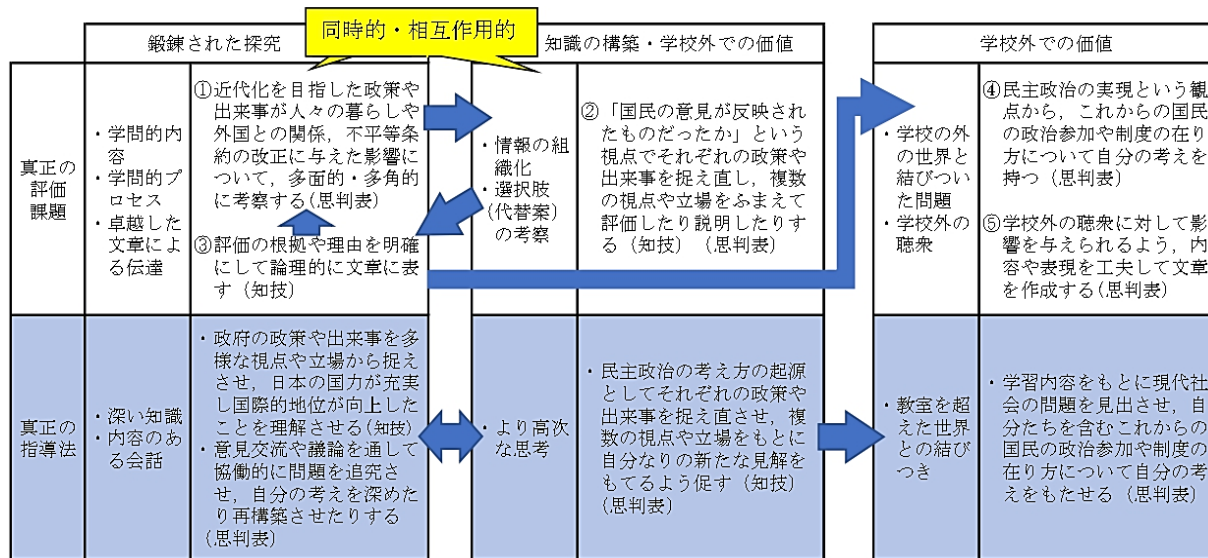


表4 社会的な事象を多面的多角的に捉える問いや資料の構想表（紙幅の都合上一部を抜粋）

事象	知識	視点	考察	問いの方向性	資料
憲法の制定 国会の開設③	近代化の柱として大日本帝国憲法に基づいた議会政治が始まり、国民の権利も一部認められるようになった。	背景 願い 方針	・欧米の政治体制と関連付ける ・政府の方針と国民の願いを比較する ・現代の日本国憲法と比較する	「なぜ憲法づくりが進められたのだろう」「政府はどのような政治を目指したのだろう」「権利を求めた国民の願いは届いたのだろうか」	大日本帝国憲法 五日市憲法案 議会政治の様子
日清戦争④ 日露戦争⑤	朝鮮での支配をめぐる中国やロシアと戦争になり、日本がそれぞれの国に勝利したことによって外国との関係が変化した。	背景 関係 影響	・日本、清、朝鮮の立場から捉える ・日本、ロシアの立場から捉える ・戦争前後の周りの国々との関係、日本の立場を考える。	「風刺画はどのような国際関係を表しているのだろうか」「2つの戦争はなぜ起きたのだろうか」「関わった国にどのような影響を与え、関係はどう変わったのだろうか」	4か国の風刺画 列強の植民地支配 戦場の様子 領土の変化(地図)



表5 「近代国家を目ざして」単元の目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・大日本帝国憲法の発布、国会の開設、日清・日露戦争、産業や科学の発展、不平等条約の改正などを通して、日本の国力が充実し国際的な地位が向上したことを理解している。(知識・技能)</li> <li>・近代化を目指した政策や出来事の意味や関連を多面的多角的に考察したり、現代の民主政治の起源として捉えて判断したりし、根拠や理由を明確にして表現することができる。(思考力・判断力・表現力)</li> <li>・主体的に学習問題を追究したり現代社会とのつながりや問題を見出したりし、これからのよりよい社会のあり方を考えようとしている。(学びに向かう力・人間性等)</li> </ul>
--

表6 「近代国家を目ざして」単元の展開(紙幅の都合上一部省略)

時数	目標	主な学習活動	評価
1	近代化を目指して行われた政府の政策や出来事と現代の民主政治との関わりを見出して学習問題を設定し、追究の視点をもつことができる。(学びに向かう力・人間性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ノルマントン号事件について、日本とイギリスの立場から捉える。</li> <li>○年表から今後の近代化のあゆみを知り、それぞれの政策がどのようなものだったのか予想しながら話し合い、学習問題①を立てる【不平等条約の改正はどのようにして達成されたのだろうか】</li> <li>○年表の憲法の発布や国会の開設に着目し、現代の民主政治の起源となる考え方や仕組みが整えられることをつかむ。</li> <li>○国民の意見に従って政治を行うという現代の民主政治の在り方を問い直し、その考えが生まれた理由や背景などについて予想しながら話し合い、学習問題②を立てる。【民主政治の考え方はなぜ生まれ、国民のどのような意見が政治に取り入れられるようになったのだろうか。】</li> </ul>	【主】近代化を目指して行われた当時の政策や出来事と、現代の民主政治との関わりを見出して単元の学習問題を設定し、追究の視点をもつようとしている。
2	政治参加を求める国民の願いの高まりによって自由民権運動が広がり、国会の開設に影響を与えたことを理解することができる。(知識・技能)		
3	大日本帝国憲法と五市市憲法を比較したり議会や選挙の様子を調べたりすることを通して、政府が目指した政治の方針を理解することができる。(知識・技能)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大日本帝国憲法と日本国憲法の内容を比較し、気づきを出す。【大日本帝国憲法の開設によって、政府はどのような政治を目指したのだろうか】</li> <li>○大日本帝国憲法と五市市憲法を比較し、政府と民衆の立場から政治に求めたものを考え話し合う。</li> <li>○第一回選挙の様子について、現代と比較しながら調べる。</li> <li>◎自由民権運動や五市市憲法をもとに、評価シートの国民の政治への意見を評価の観点として設定し、国会の開設と国民の意見との関わりを考え評価する。</li> </ul>	【知・技】政府が目指した天皇主権の方針を理解している。 【思判表】立憲政治の実現に国民のどのような意見が取り入れられたのかを考え、根拠を明確にして評価している。
4 5	朝鮮での支配をめぐって日本が中国やロシアと対立する関係になったこと、戦争に勝利し周辺諸国の中の日本の立場が変化したことを理解することができる。(知識・技能)		
6	日露戦争での勝利や朝鮮併合によって、日本の国際的な地位が向上したことを理解することができる。(知識・技能) ◎2つの戦争と国民の意見との関わりを考え評価する。(思考力・判断力・表現力)		
7	新たな産業や科学が発展して世界に影響を与えるようになり、日本の国際的な地位が向上したことを理解することができる。(知識・技能) ◎産業の発展と国民の意見との関わりを考え評価する。(思考力・判断力・表現力)		
8	陸奥宗光と小村寿太郎の働きについて調べ、これまでの近代化を目指した政策と関連付けて不平等条約を改正することができた理由を考察することができる。(思考力・判断力・表現力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○近代化を目指したこれまでの政策と出来事を年表にまとめる。【不平等条約の改正はどのようにして達成されたのだろうか(学習問題①の解決)】</li> <li>○陸奥宗光と小村寿太郎の働きについて調べる。</li> <li>○これまでの近代化の経緯と2人の働きから、不平等条約の改正を達成することができた理由を考え、ワークシートに記入する。</li> <li>○全体で議論し、考えを深める。</li> <li>◎不平等条約の改正と国民の意見との関わりを考え評価する。</li> </ul>	【思判表】条約改正を達成した理由を多面的多角的に考え表現している。 【思判表】不平等条約の改正に国民のどのような意見が取り入れられたのかを考え、根拠を明確にして評価している。
9	近代化によって人々の暮らしが変化する中、国民が権利を求める様々な運動を行い政治に影響を与えていったことを理解することができる。(知識・技能) ◎選挙権の拡大と国民の意見との関わりを考え評価する。(思考力・判断力・表現力)		
10	これまでの学習を踏まえて、学習問題②の答えや当時の民主政治を発展させるために必要な制度や仕組みについて、複数の視点や立場から考察し、自分なりに表現することができる。(思考力・判断力・表現力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>【民主政治の考え方はなぜ生まれ、国民のどのような意見が政治に取り入れられるようになったのだろうか。(学習問題②の解決)】</li> <li>○作成してきた評価シートをもとにこれまでの学習を振り返り、学習問題②の答えを自分なりに考えまとめる。</li> <li>○考えを交流し、自分たちと同じ一般の人々が社会の仕組みを変えてきたことをもとに社会の変容性について話し合う。</li> <li>○評価シートの点数の低かった意見に着目し、当時の民主政治をさらに発展させるためにはどのような制度や仕組みがあるとよかったのか考え話し合う。</li> <li>【当時の民主政治をさらに発展させるためには、どのような制度や仕組みがあるとよかったのだろうか。】</li> <li>○現代は民主政治が実現していると言えるか考え、意思表示する。</li> </ul>	【思判表】これまでの学習をふまえて、政府の近代化に向けた取り組みと国民の意見との関わりや、当時の民主政治を発展させるために必要な制度や仕組みについて、複数の視点や立場に立って考察し自分の言葉でまとめている。
11	投票率と有権者率の推移から現代の問題を見出し、民主政治を実現するための国民の政治参加の在り方について自分の考えをもち表現することができる。(思考力・判断力・表現力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前回の質問の答えを交流する。</li> <li>○投票率と有権者率の推移のグラフから気づいたことを出し合う。【民主政治を実現していくために、大切なことは何だろうか】</li> <li>○投票に行かない人の理由を予想しながら話し合い、資料で確認する。</li> <li>○投票率が低下し続けることで起こりうる問題を考える。</li> <li>○模擬選挙を体験し、一人一人の意見を政治に生かすことの意義について考える。</li> <li>◎民主政治を実現していくために大切だと思うことをまとめ、交流して考えを広げる。</li> </ul>	【思判表】衆議院議員総選挙の投票率や有権者率の推移のグラフから現代の問題を見出し、これからの国民の政治参加のあり方について自分の考えをもち表現している。

### 3. 授業の構想と実際

本単元は、近代化の進展や民衆の運動によって「国民の意見を政治に取り入れる」という民主政治の考え方の起源となる時代を扱う。そこで、児童が歴史を学ぶ意味を考えられるようにするために、既習の政治分野の学習を活用する。児童は18才以上の全ての国民に選挙権が認められている結果を学習済みだが、その考え方がなぜどのようにして実現していたのかについては学んでいない。本単元の学習の見通しとして、初めて国会が開議し議会政治が始まることをおさえた上で、現実社会の文脈に沿った現代の民主政治の起源を追究する視点を持たせることで、歴史を学ぶ意味を考えながら学習を進めていけると考えた。具体的な手立てとして、事象を多面的多角的に考察し広い視野からの理解を促すものと、それを生かして現代の民主政治の起源を考察する2つの学習問題を設定し、表2の段階表に基づく単元の指導過程を構想した(表3)。

その上で、それぞれの事象の多面的多角的な理解を促すために必要となる視点や考察の方法を一覧表に示し、それをもとに各時間の問いや必要となる資料を構想した(表4)。民主政治の起源を追究させる手立てとして、政府の行った政策や出来事を「国民の意見が反映されたものだったか」という視点で捉え直し、端末上のレーダーチャートを用いて評価(判断)させ、その理由を記述させた。自由民権運動や五日市憲法案の内容をもとに、当時の国民の政治に対する願いを考えさせ、児童から挙げた意見をもとに「政治への参加、生活の向上、平等な社会(の実現)」の3つを評価の観点として設定し、評価対象として国民への影響や関わりが強い5つの事象を選定した。児童が知識を用いて説明・主張などの言説を生み出せるようにすること、そのために知識の習得と活用を分けず「同時的・相互作用のプロセス」であるべきだとするニューマンの主張を踏まえ、事象の多面的多角的な考察(表3①)と新たな視点で自分なりに判断し表現する活動(表3②③)を同じ時間に

行い、それを事象ごとに繰り返しながら学習問題の解決に迫っていく展開を構想した。

単元末では選挙権と投票率の推移から現代の問題を見出し、模擬選挙を通して民主政治を実現する上で大切なことを考える時間を設定した。歴史学習とそれを活用して現実社会を問い直したり判断したりする学習を単元を通して行うことで、歴史を学ぶ意味を考えながら目標とする市民性を育成する授業の実現を図ることができると考えた。単元の目標(表5)と展開の概略(表6)を5ページに示す。

### 4. 分析と考察

#### (1) 鍛錬された探究と知識の構築に関わって

1つ目の学習問題「不平等条約の改正はどのようにして達成されたのだろうか」について、表7の第8時前半のプロトコルを見ると、問い返しを含めたやり取りの中で児童が既習の視点や考察を根拠にして多面的多角的に迫っていく様子が窺える。その後のグループでの話し合いを通して、最終的に8割以上の児童が複数の事象を関連付けたり総合したりしてワークシートに理由を記述していた。また、日本だけでなく外国からの視点で事象を捉え、日本への見方や評価が高まったことを理由に挙げる記述も複数の児童に見られた(表8)。

表7 第8時授業プロトコル(一部抜粋)

発	内容
T	どんな理由が考えられるかな。
S	野口英世が世界で認められたから。
T	世界に貢献した視点だね。何で認められるようになったんだっけ。
S	技術が上がって世界の人達を救ったから。
T	なるほど、よく覚えていたね。他にも日本が影響を与えたことがなかったっけ。
S	産業が発展して外国の人たちの見方が変わって、外務大臣が説得したからだと思います。
T	〇〇さん、色んな視点から理由を考えているね。日本はどんなふうに見られていたんだっけ。何かそれが分かる資料がなかったっけ。
S	風刺画で日本は低く見られていたけど、戦争に勝利して世界に強さを見せつけたことも条約の改正に関係あると思う。

表8 考察に関わる児童の記述(一部抜粋)

・産業や科学の発展で世界的に注目されて、日清戦争や日露戦争でも外国の日本に対する見方が変わったから。日本の立場が上がって条約の改正がしやすくなって、陸奥宗光や小村寿太郎が交渉を頑張って条約の改正に成功したんだと思った。

・生糸の生産量が世界一になったり工場が増えたりして、外国からの見方が変わった。また2つの戦争に勝ったことで外国もおどろき、西洋をお手本とした近代化が認められたから達成された。

また、近代化評価シートを用いて政府の政策や出来事を評価する際にも、複数の視点や立場から根拠を明確に示し、自分なりの指標や言葉で評価する児童が見られた(図1)。

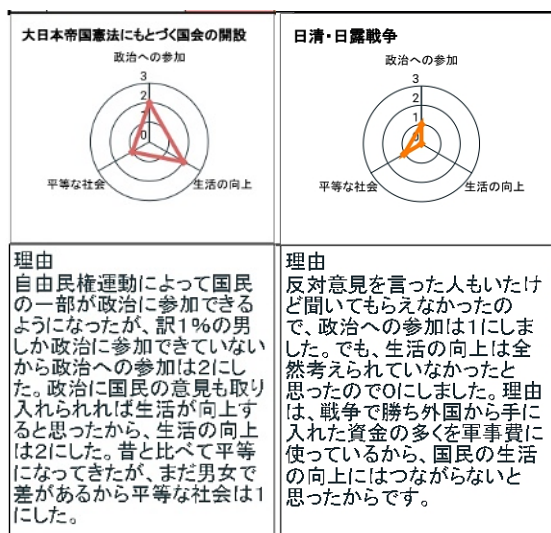


図1 児童の評価と記述(一部抜粋)

以上の結果から、表4をもとに児童の見方・考え方を働かせることをねらって問いを構想したり、必要な風刺画や地図、グラフなどの資料を追加し読み取る時間を設けたりしたことが、多面的多角的に探究したり表現したりすることを促し、一面的ではないより広く深い事象の理解や、それをもとに自分なりに判断し評価することに寄与したと考える。

また、授業前後の質問紙調査では、授業中の話し合いの中で自分の意見を考え直していると答えた児童の割合が26%増え、考え直していないという児童が0になった。政策を評価したり学習問題を解決したりする際、グループや全体で交流や議論する時間を確保して協働的に追究させたり、ワークシートや端末

上の考えをいつでも修正可能にしたりしたことが、自分の考えを吟味したり新たな視点や立場の意見を取り入れて再構築しようとしたりする意識へつながったことが示唆される。

(2) 学校外の価値に関わって

単元の学習を踏まえて行った模擬選挙を受け、国民一人一人の意見を政治に取り入れることの意義や課題について、考えを深める記述がOPPシートに見られた(表9上)。また、民主政治を実現するために大切なことは何かという問いに対しては、政治参加の意識を高めるといった答えだけでなく、現状の制度や仕組みを問い直す必要性について指摘する記述も見られた(表9下)。学習した時代の実態に沿うよう、有権者を絞り徐々に広げていくという方法で模擬選挙を行い、投票できる・できない立場のそれぞれの思いや感じたことをその都度交流させるようにしたり、第10時に当時の民主政治を発展させるために必要な制度や仕組みを考えさせたりしたことが、当時と比較し関連付けながら現代社会の問題について考え表現する児童の姿につながったと考える。現代の問題を見出したりよりよいあり方を考えたりするために歴史の学びを生かすことを体験したことで、歴史を学ぶ意味を実感したり再確認したりする児童が増えたと考えられる。これは授業後の質問紙調査において、過去の歴史を知ることが大切・どちらかといえば大切だと答えた児童の割合が86%を超え、その理由として現代を意識したものが増えていることから裏付けられる(図2)。

表9 考察に関わる児童の記述(一部抜粋)

・一人だけ投票するように言われるとやりづらかったけど、みんなができるとなるとしっかり投票できた。

・民主政治の考え方は色々なことをして取り入れられたのに、今も問題があるから政治は難しいと思った。

・みんなが納得する結果になるよう、選挙でなるべく大勢が票を入れることが大切。もし忙しくてできなかったら、家から送れる仕組みがあるといいと思った。

・一人一人の意識や行動を変えていく必要がある。そしてもっと色々な所で投票できるようにした方がいい。



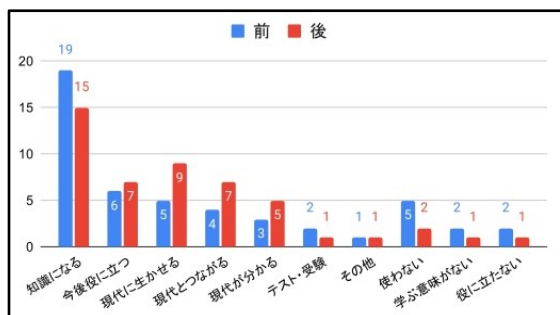


図2 上記の質問に対する答えの理由 n=49

## 5. 成果と課題

本研究では、ニューマンの学びのスタンダードを基にした小学校歴史学習での真正の学びの授業構想と実践を行い、3つの基準に即した展開や手立てを構想することで、歴史を学ぶ意味を考えながら主体的に考え判断する市民性の育成を図ることへの有用性を見ることができたと言えるだろう。

課題として、以下の3点を挙げる。1つ目は、学習内容の増加についてである。真正の学びを実現するために、読み取る資料の追加、近代化評価シートによる政策の評価、現代の問題を見出し考える時間の設定などを行い、その効果が見られた反面、時間がかかりすぎてしまったことは否めない。特に、事象の探究と評価を時間内に同時に行うことは児童の負担の面でも難しかったため、実践する上でより効率よく探究と知識の構築を同時に行える手立てを構想する必要があると言える。

2つ目は、学校外での価値の未達成についてである。ニューマンは学びの現実社会の文脈の必要性と同時に、学校外の聴衆に影響を与える目的で言説を生み出すことや、学校外部者を含んで言説を評価することの重要性を主張している。この点については今回検証できなかったことであり、今後の課題としたい。

3つ目は、ニューマンのスタンダードをもとにした授業構想の限界についてである。今回は歴史学習の中でも政治分野の学習を活用しやすい近代の単元を扱ったが、より古い時代の単元では現実社会の文脈とのつながりを見出すことの難しさが窺える。スタンダードを活用した授業構想が現代の社会科学習の中

でどこまで可能なのか、他の領域や単元ではどのような手立てや展開が考えられるのかについて、今後明らかにしていきたい。

## 6. 引用・参考文献

- フレッド・M・ニューマン著 (2017) 渡部竜也他訳『真正の学び／学力 質の高い知をめぐる学校再建』春風社
- 後藤賢次郎他著 (2021)『新・教職課程演習 17巻 中等社会系教育』協同出版
- ハロルド・バーラック他著 (2021) 渡部竜也訳『真正の評価 テストと教育評価の新しい科学に向けて』春風社
- 石井英真著 (2015)『今求められる学力と学びとは —コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影—』日本標準
- 児玉康弘 (2001)「中等歴史教育における『解釈批判学習』の意義と課題—社会科教育としての歴史教育の視点から—」『社会科研究』55,11-20
- 溝口和宏 (2000)「市民的資質育成のための歴史内容編成—『価値研究』としての歴史カリキュラム—」『社会科研究』53,33-42
- 文部科学省 (2018)「OECD 国際教員指導環境調査 (TALIS) 2018 報告書—学び続ける教員と校長—のポイント」 ([https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/other/\\_icsFiles/afieldfile/2019/06/19/14\\_18199\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2019/06/19/14_18199_2.pdf)) (最終閲覧日:2023年2月10日)
- 文部科学省 (2017)『小学校学習指導要領解説社会編』
- 澤井陽介他著 (2017)『見方・考え方 社会科編 「見方・考え方」を働かせる真の授業の姿とは?』東洋館出版
- 渡部竜也 (2019)『Doing History : 歴史で私たちは何ができるか?』清水書院
- 渡部竜也 (2021)「民主的で平和的な国家・社会の形成者を育成するのに必要な見方・考え方とは何か: 学問絶対主義の貧困」『東京学芸大学紀要. 人文社会科学系. II』72,27-40